様式第3号

自己評価報告書（最終報告）

報告者	生活・健康系コース（家庭） ／黒川　衣代

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ．学長の定める重点目標

Ⅰ－1．教育大学教員としての授業実践

本学の目的は，豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し，学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには，教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が，学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは，教員養成大学の教員として，本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか，これまでの取り組み状況を総括し，具体的に示して欲しい。

1．目標・計画

これまでも卒業後、教員として学校現場に立つことを念頭に置いて、担当しているそれぞれの授業を行ってきた。それをふまえ、次のように計画する。
①担当している教育実践コア科目と専修専門科目を関連づけ、それぞれの授業がどのように関わっているのか、さらに丁寧にわかりやすく説明する。
②教育実践コア科目においては、本やWebサイトで得られる数多くの家庭科授業実践報告を用いて家庭科の「よい授業」を考えさせ、既存実践報告の改善案と理由を示させた上で、自分なりの模擬授業を実践させる。
③専修専門科目においては、人前でわかりやすく説明をすることが授業実践の練習になるので、学生の調べ学習とプレゼンテーションを行う。発表内容については小・中の家庭科の内容を意識させる。

2．点検・評価

①専修専門科目「保育学」「家族論」と教科教育実践Ⅰ、Ⅱの関係をわかりやすく図で説明し、教員としての力量を高めるためには専門科目の授業においても「教えること」の意識化が重要であることを強調し、絶えずその意識に注意を向けることを促した。
②教育実践コア科目である教科教育実践Ⅱにおいては、本やWebサイトで得られる数多くの家庭科授業実践報告を集めて分析し、家庭科の「よい授業」を考えさせた。その上で、既存実践報告の改善案と改善の理由を示させ、最後に自分で模擬授業案を考えさせ実践させた。
③家族論においては、学生がテーマを決めてミニリサーチを行い、プレゼンテーションを行った。テーマは、小・中の家庭科の内容に関連させた。

Ⅱ．分野別

Ⅱ－1．教育・学生生活支援

1．目標・計画

①授業の欠席が重なってくる学生に、細やかな教育支援を行う。
②学生が就職活動に生かせるよう、礼儀マナーや言葉遣いについて随時、指導していく。
③進路や悩みの相談ごとがある学生には随時応じる。

２．点検・評価

①③担当する授業で欠席が重なった学部学生が1名いた。欠席が重なると学期末のテストが受けられなくなるので、研究室によんで話を聞いた。クラス内の人間関係等の悩みが打ち明けられ、退学を考えていたその学生に熟考を促すことができた。その学生は休学を考えていたが、休学もせず在籍している。
②礼儀マナーや言葉遣いについては、授業だけでなく、研究室・ゼミ室等での関わりの持てる機会を通して、随時指導した。特に、言いかけの途中で終わらずに、最後まできちんと文章として伝えることを繰り返し指導した。また、ゼミ生の卒論調査は附属以外の中学校にも依頼したので、礼儀マナーや言葉遣いについて細心の注意を払うよう具体的に指導した。
④教員採用試験面接前に、模擬面接を行った。卒論生2名のうち、1名は愛知県小学校正規採用、1名は鳥取県小学校臨時採用となった。

Ⅱ－２．研究

１．目標・計画

①学会誌に論文を少なくとも1本は投稿できるように研究を進める。
②少なくとも1回は学会で発表をする。
③研究助成の公募に申請し、学外資金を得るよう努力する。

２．点検・評価

①中間報告で家政学会誌に投稿中であった論文「アメリカの子育て世代における食事マナーの伝達」の掲載決定が決まり印刷中である。また、国際家政学会アジア地区大会で日本の代表として行ったカントリープレゼンテーション（英語発表）の内容は、家政学会誌(2011年12月号）に掲載された。
②学会発表は、韓国家政学会主催国際学会、日本家政学会、国際家政学会アジア地区大会で行った。特に、韓国家政学会主催国際学会では、招聘を受けての口頭発表であり、国際家政学会アジア地区大会ではポスター発表の他に、日本の代表としてカントリープレゼンテーション（英語発表）を行った。さらに、国際家政学会アジア地区学会誌（The Journal of Asian Regional Association for Home Economics）の審査員（査読者）を務めた。
③科学研究費補助金は分担者として申請した。さらに、厚生労働科学研究費補助金の申請も行った（分担者）。
④2012年からの使用に向けて、過去4年間取り組んだ教育図書の中学校教科書「技術・家庭　家庭分野」と教師用指導者がようやく発行された。
⑤「南アジアにおける女子教育及び女性のライフコースに関する総合的研究」（科研費研究、代表：兵庫教育大　服部範子）の一環としてブータンの教育制度についてまとめた。
⑥アメリカの家族関係学会（NCFR）が作成したFamily Life Education（家族生活教育)の紹介・説明用 Power Point スライド翻訳し、日本語版を作成した。これはNCFRのホームページにアップロードされた。

Ⅱ－３．大学運営

１．目標・計画

①学内の担当委員会、教授会等に出席し、職務を遂行する。
②上記の他に委員等の依頼があれば、引き受ける。

２．点検・評価

①②2011年度は学部教務委員会委員、地域連携委員会委員、実地教育専門部会委員、「鳴門教育大学授業実践研究」誌編集専門部会委員、外国語活動及び特別支援教育への対応検討専門部会員を務め、それぞれの委員会において職務を遂行した。外国語活動及び特別支援教育への対応検討専門部会においては主査を務めた。加えて、2012年度に継続される委員として第5回中日教師教育学術研究集会準備委員会委員を務めている。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携，国際交流等

1. 目標・計画

①附属校との授業実践研究や附属校で行われる研究大会に、積極的に関わり参加する。
②教育支援アドバイザー講師や行政の委員会委員の要請があれば積極的に引き受ける。また、地域社会との交流・連携の機会があれば積極的に行う。
③留学生、外国人研究者の希望者を積極的に受け入れる。

2. 点検・評価

①附属中学校（平成23年6月3日）、附属小学校（平成24年2月11日）の研究大会に参加し、意見交換を行った。 また、、ゼミ生の一人が附属中学校で授業実践を行った。
②10月静岡県富士市で開催された講習会において「社会の中の家族」というタイトルで講師を務めた。この様子は静岡県の新聞「富士ニュース」で紹介された。
実地教育専門部会委員として鳴門市内の小学校をまわり校長先生から話を伺うことができた。また、地域の中学校との連携として、卒論生の一人が東みよし町立三加茂中学校で授業実践をさせていただくことができた。もう一人の卒論生の卒論のためにNPO法人ボランティア鳴門西の代表者と会い、今後に続くつながりができた。
③タイからの留学生2名が後期の授業「家庭経営学概論」を受講した。また、本学が留学生対象に開講している「日本の教育と文化」の授業の一部（日本の家族）を担当し、英語で授業を行った。
④韓国慶南大学校師範大学家庭科教育所属の教員2名、学生約20名と家庭コースとして学術交流を行い、積極的に意見交換をした。（平成24年2月2日）

Ⅲ. 本学への総合的貢献（特記事項）

①文部科学省からの依頼を受けて、平成23年度小学校資格認定試験、家庭科の問題を作成した。
②日本家政学会誌への掲載が2件、国際学会での発表が3件あった。そのうち5月の韓国での発表は招聘、7月のアジア学会では国の代表としての発表であった。また、国際誌の査読員を務めた。また、アメリカ家族関係学会へ翻訳により貢献した。（要約して再掲）
③平成23年10月８－９日、本学において第58回日本家政学会中国四国支部徳島大会を主催し、実行委員として精力的に取り組んだ。